

## 船舶事故調査報告書

平成22年6月17日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵 男（部会長）  
 委員 山本 哲 也  
 委員 根本 美 奈

事故種類	同乗者死亡
発生日時	不明（平成21年4月29日（水、祝日）10時40分ごろ同乗者が落水したものと考えられる。）
発生場所	不明（上記場所は山梨県富士河口湖町留守ヶ岩 <sup>るすがいわ</sup> 南方沖150m付近（概位 北緯35°30.7′ 東経138°44.1′）であった。）
事故調査の経過	平成21年4月29日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか2人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	モーターボート <sup>エスタブリューエスシー</sup> S W S C、5トン未満 230-25349山梨、個人所有 5.48m (Lr) × 2.22m × 0.58m、FRP ガソリン機関、187kW、平成3年8月30日
乗組員等に関する情報	船長A 男性 24歳 二級小型船舶操縦士（1マイル限定）・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成14年7月12日 免許証交付日 平成19年7月3日 （平成24年7月11日まで有効）
死傷者等	死亡 1人（同乗者A）
損傷	なし
事故の経過	<p>本船は、船長A及び同乗者Aほか2人が乗船し、河口湖北岸の大石地区にある留守ヶ岩南方沖付近を航行中、船長Aが尿意を催したので、いったん機関を停止した。</p> <p>船長Aは、他船の航走波により船体が少し動揺する中、船尾トランサムステップに立って小用を足したのち、尿意を催した同乗者Aと入れ替わり、操縦席に戻ってほかの同乗者と談笑していたところ、同乗者Aの叫び声と「ドボン」という水音を聞いた。</p> <p>船長Aは、機関を後進にかけて近づけばプロペラで同乗者Aを負傷させるおそれがあると考え、前進にかけて左旋回し同乗者Aの近くまで行き、水中に飛び込んで近づいたが、平成21年4月29日10時40分ごろ、目前で同乗者Aが水中に沈んでしまった。</p> <p>遊覧中のボートの船長は、本船の異常な様子に気付き本船に接近して、水中にいた船長Aにボートに上がるように伝えるとともに、警察及び貸しボート業者に連絡した。</p> <p>同乗者Aは、来援した消防署のダイバーにより救助されたが、搬送</p>

	先の病院で13時40分ごろ死亡が確認され、死因は溺水と診断された。	
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北北東、風力 1、視界 良好 海象：水温 約13℃	
その他の事項	<p>船長A及び同乗者Aは、当日10時ごろから湖岸でバーベキューをしながら飲酒をしていた。</p> <p>船尾トランサムステップ付近には、ハンドレール等身体の支えになるものがなかった。</p> <p>船長及び同乗者3人は、いずれもジャージの上下を着用し、素足で、救命胴衣を着用していなかった。</p> <p>船長以外の同乗者3人は、いずれも水泳が不得手であった。</p> <p>同乗者Aは、救出時すでに心肺停止状態であった。</p> <p>船長Aの呼気アルコール濃度は、0.30mg/l（血中アルコール濃度換算0.60mg/ml）で、同乗者Aの血中アルコール濃度は0.61mg/mlであった。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>不明</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>死因は、溺水であった。</p> <p>本船は、河口湖留守ヶ岩南方沖において停船中、同乗者Aが救命胴衣を着用せずに落水したものと考えられるが、落水した状況については、目撃者がいないことから明らかにすることができなかった。</p>
原因	本事故は、本船が河口湖留守ヶ岩南方沖において停船中、同乗者Aが落水したことにより発生したものと考えられるが、その原因を明らかにすることはできなかった。	